

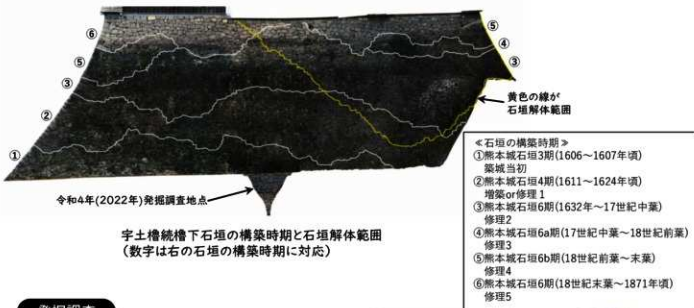
# う と やぐら つづき やぐら いし がき 宇土櫓続櫓石垣

## 石垣の時期想定

熊本城では石垣の積み方や使用された石材の特徴をもとに構築時期を1~7期に分け、そのうち1~4期までが熊本城築城当初の石垣、5~7期が当初の石垣を修理したものと考えています。宇土櫓続櫓石垣は、石垣表面の観察の結果、3・4・6期の石垣と想定しています(下写真)。(参照) 熊本城調査研究センター2023『熊本城解体新書その1 特別史料 熊本城跡の石垣調査成果 本丸地区の築城工程編』

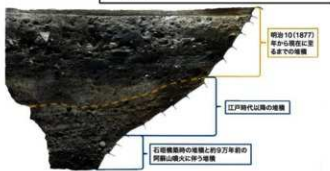
## 地震被害と復旧方法

平成28年熊本地震によって宇土櫓では壁の破損や床の傾き、続櫓が倒壊するなど大きな被害がありました。石垣も例外ではなく、崩落は免れたものの一部で大きな膨らみが生じました。この膨らみへの対処について専門委員会でも多くの審議を重ねた結果、対象範囲を解体して再度積み直すことになりました。



## 発掘調査

令和4年(2022年)に、宇土櫓西側にある空堀で発掘調査を行いました。調査の結果、現在の堀底から約5m下で、阿蘇山噴火で積もった比較的硬い土を掘り込んで据えられた根石(石垣最下段の石)を確認しました。これによって、石垣の高さが約25mあることが判明しました。



発掘調査成果に基づく空堀内の土の堆積状況

## 石垣解体工事

令和6年(2024年)9月から、石垣解体用の足場の組み立てです。11月から石垣の解体が始まり、翌年の8月まで続く予定です。解体と並行して、石垣の文化財的な調査も同時に行います。